

下山手カトリック教会跡 下山手通9丁目



下山手カトリック教会の前身は1870（明治3）年に居留地37番地（現大丸）に建てられたカトリック教会である（なお、カトリック教会の本体は後に中山手カトリック教会〈現、カトリック神戸中央教会〉となった）。カトリック教会は布教活動を進めて行くなか多聞通に伝導所を開設し、これをもとに1910（明治43）年に聖堂を完成させた。これが阪神・淡路大震災前の下山手カトリック教会の聖堂で、煉瓦造り平屋建てのロマネスク様式の建物だった。

神戸市建築百選にも選ばれた名建築であったが、震災で側壁の一部を残して崩壊してしまった。震災後、その年の8月下旬に解体撤去されたが、この教会は中山手カトリック教会などと統合され、現在ではカトリック神戸中央教会（もとの中山手カトリック教会の場所に新設）となったため、この地でもとの美しい聖堂の姿を見せることはもうない。

場所：神戸市中央区下山手通 7-17-1